

教育方針と学校運営は 子どもの幸せを中心に



やまもと ひさお
山本 久夫 議員

問

教育長に就任され初めての定例議会なので、教育行政への取組みについて考えを問う。

定められている教育基本計画については、その内容を踏襲し進めるものと思うが、計画において新しい政策や取組みはあるか。また基本計画は、人口減少の対策に特化した内容でもあり、アクションプランの柱である「ふるさと・キャリア教育」の継続も、児童・生徒の減少に伴い見直しが必要と考える。

教育基本計画も令和6年度が最終年度となっているが、今後、検証と見直しを実施し、新たな計画を策定すると思うが、教育長の考えや理念を反映した教育方針の内容になるかを問う。

学校運営については、町の方針として保護者の意見を尊重し、学校を残すことを基本に協議を実施してきた経過がある。しかし、児童・生徒の減少が進み、学校行事や

児童会、子ども会などに様々な影響が出てきているのも事実ではないか。教育行政においては、児童・生徒に平等の条件と環境を与える事が重要ではないかと考えるが、今後の学校運営について考えを問う。

答

宮川 教育長

現時点では、本計画の柱は従前と同様、「ふるさと・キャリア教育」とし、当町が目指す児童生徒像、将来の人間像を目指すことを踏襲していきたい。

新たな教育施策について、検討するまでには至っていないが、いくつか課題が指摘されているので、そこについては検討していきたい。

学校運営については、従前より保護者や地域から学校存続の希望があれば、それを叶える努力をするのが行政の役割であるとして、一貫した考えで教育行政を進めてきた。しかしながら特に小・

中学校では、一定の集団規模を確保する事が望ましいと考える。

将来、子どもたちは必ず社会という大きな集団の中で生活するようになり、自分で判断し、決断して、そして行動をしなければならぬ。

統合ありきを前提で議論するのではなく、将来の変化を予測することが困難な時代を生きる子どもたちにとって、何が本当に幸せなのかを中心に捉え、改めて議論を深めていく必要があると認識している。



アユの放流を楽しむ佐賀保育所の子どもたち（令和6年6月20日、伊与木川）